

河川

燃料

飲料

食料

紅廟と鞏  
寧城

は西北部に向て傾斜し、廸化城は其斜面に在り。城内亦西に緩なる傾斜を成せるも、東北部即ち東門より西北角に至る線は、東北急に十米突の高さを有し、自ら一臺地を成形す。是れ滿城なり。河川はフーホ河、南山麓に發し、中央の凹地を流れ、西山、紅廟丘の間を通し、西北に向て紅廟子の耕地を灌漑す。其の東西四里餘、南北五里弱の廸化草地は、黄土層鹹を含みて、耕地に適せずと雖も、牧場には最良の地たり。東西南の山々は、何れも炭礦豊富にして、就中東山は、良質の無烟炭を出すと云ふ。且つ東南山中には、松樹林を成し、従ふて木炭を製し得べく、薪材としては東南山の柳榆優に供給を充し、草地も亦至る處柳樹茂り、殊に道傍、河岸に繁茂す。飲料は井水泉水齊しく可なるが、井水は混濁せるに因り、數時間澄清せざれば用ゆべからず。食料は紅廟子の西北に米、麥を産すれども其量少なく、總て昌吉、瑪那斯、故城の輸入に待ち、野菜も亦之を昌吉に仰ぐ、豚、羊、牛には不足なし。

西域聞見録に『城東南、即博克塔班(博格多鄂拉山)三峯入雲、氷雪晶瑩、望之如琉璃世界、靈蹟最著。故俗以靈山呼之』と。又紅廟丘は、丘上一廟宇を存し、紅泥聖壁、頗る壯觀を極む、故に名づく。滿城即ち鞏寧城は、乾隆三十七年(千七百七十二年)の創築に係